

Albert Marquet

アルベール・マルケ (1875-1947)



作品名 エルブレ・夏・セーヌの川岸

種類 ボードキャンバス・油彩

サイズ 32.4x41.0cm

Wildenstein Plattner Institute 照会確認済 右下にサイン

略 歴

1875年、ボルドーに生まれる。

1893年、パリの装飾美術学校に学び、続いてエコール・デ・ボザール(官立美術学校)でギュスターヴ・モローの指導を受ける。ここで同窓生の6歳年上のマティス、ルオーらと知り合った。特にマティスとは親密で、マティスから絵の具を買ってもらったり、二人で肩を並べて描いたという。後にマティスは、マルケのことを「わが北斎」と呼んだと回想している。一歳年上の小説家シャルル＝ルイ・フィリップとも仲が良く、その出世作『ビュビュ・ド・モンパルナス』出版にあたり、マルケに挿絵を依頼している。ただし、これは出版社に拒まれ実現せず、マルケの死後夫人によって出版された。

後にフォーヴィスム(野獣派)と呼ばれる画家グループに加わるが、

マルケの作風は激しいデフォルメや非現実的な色彩を用いない、穏健なものである。

派手さや革新性はないが、グレーや薄い青を基調とした落ち着いた色彩と穏やかなタッチで、

パリの街や港の風景などを描き、「水の画家」と評された。

生涯にアルジェリアを含め各地へ旅したが、こうした穏やかな画風が変わることはなかった。